

1 3. 新潟県におけるてんかん診療連携—西新潟中央病院— (2024 年)

国立病院機構西新潟中央病院副院長 遠山 潤
 国立病院機構西新潟中央病院臨床研究部長 福多真史

まとめ

- 2023 年度の西新潟中央病院の新規てんかん患者数は、最近 8 年間でもっとも少なかった 2022 年度よりも増加したが、2019 年度以前までには回復していなかった。また県外からの紹介患者の割合は 2022 年度よりもやや減少していた。
- てんかん外科件数は 2022 年度よりも 10 件以上減少していたが、2024 年に導入された手術支援ロボットにより、今後てんかん外科件数の増加が見込まれる。
- 研修セミナーや市民向けの講演会などは Web 開催で行われ、高い視聴者回数を維持していた。

1. 診療実績

現在当院のてんかんセンターは、2024 年度 4 月からは小児神経科医 7 名（てんかん専門医 4 名）、精神科医 1 名（てんかん専門医）、脳神経外科医 5 名（てんかん専門医 4 名）、脳神経内科医 1 名の 14 名で診療を行っている。てんかんの診療機器としては、1.5 テスラ MRI、SPECT、MEG、ビデオ脳波記録 5 台などで、例年と変わりはない。

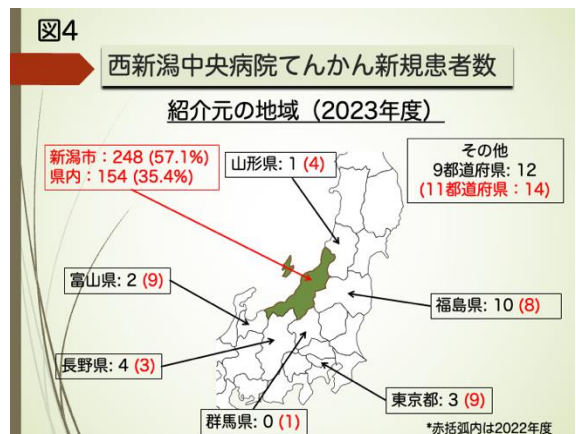
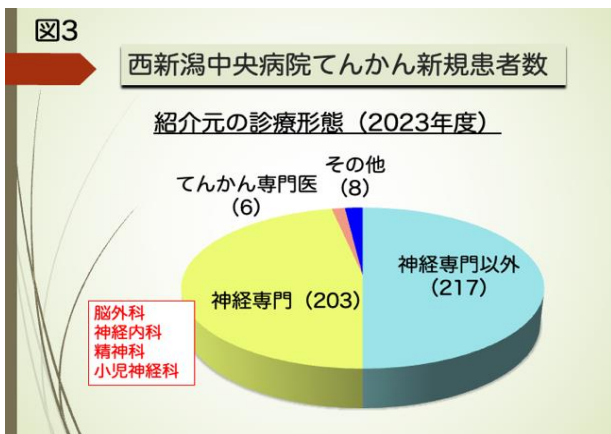
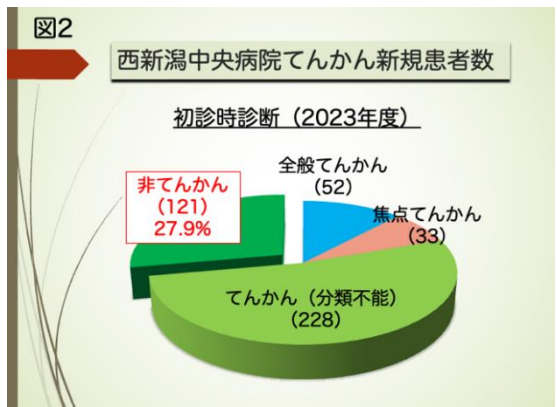
2023 年度のてんかん新規患者数は 434 名で、最も少なかった 2022 年度よりも増加したが、2019 年度以前のレベルまでは回復していない（図 1）。COVID-19 のパンデミックの影響により、受診控えの傾向が継続しているものと思われる。

2023 年度の初診時診断では、例年と比較してその割合に著変はなかった。非てんかん症例は 121 名（27.9%）で、これは 2022 年度が 30%を超えていたので、その割合は少し減少していた（図 2）。

紹介元の診療形態は神経専門医（脳外科、脳神経内科、精神科、小児神経科など）とそれ以外に分けたが、ほぼ同様の割合であった。（図 3）。てんかん専門医からのご紹介の患者数は前年の 15 人から 6 人に減少した。

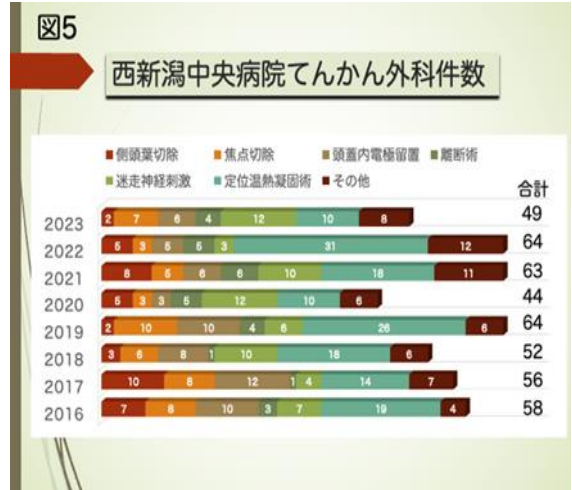
紹介元の地域は新潟市が 248 名（57.1%）、新潟県全体では 402 名（92.6%）で、割合としては、2022 年度の県全体の割合が 88.1%であったので、県外から紹介患者の割合は相対的に減少していた（図 4）。とくに近県である富山県が 9 人から 2 人に、山形県が 4 人から 1 人に、群馬県の 2023 年度は 0 であった。福島県と長野県は前年度とほぼ同数であったが、山形県の日本海側、福島県の会津地方、長野県の北部、群馬県の北部、富山県などのてんかん専門施設が少ない地域でのてんかん治療難民に対するてんかん啓発活動が必要と思われる。

2023 年 1 月から 12 月までの当院でのてんかん外科の手術件数は 49 件で、2021 年、2022 年に比較して



10 件以上減少していた（図 5）. 世界的にも傾向が続いている側頭葉切除の件数の減少や定位温熱凝固術の減少に起因するものと思われる。

2024 年 1 月から手術支援ロボットシステムである ROSA one brain system が当院に導入された。これにより、広範囲に焦点が存在する症例、脳深部に焦点が疑われる症例などに対しても、積極的に定位的深部脳波検査(SEEG) を行う症例が今後増加するものと思われる。SEEG 症例が増加すれば、その後の焦点切除などの根治的治療は言うまでもないが、2023 年に承認された視床前核に対する脳深部刺激療法あるいは迷走神経刺激療法などの緩和的治療の適応となる症例の発掘にもつながり、最終的にはてんかん外科手術件数の増加につながるものと期待している。



2. 教育・啓発活動

研修活動は、2023 年度も引き続き Web 開催で行われた。医師向けのとんかん夏季セミナーは 2022 年度の 46 名から 56 名に増加し、看護師研修会は 2022 年度が 501 名から 672 名に増加した。臨床検査技師研修会は 2022 年度が 338 名だったのが、2023 年度は 251 名に減少したが、実習型研修を再開して 10 名の検査技師が参加した。学校や保育園の先生などに向けた専門職のためのてんかん研修は、Web 研修会にしてから参加人数が大幅に増加し、現地開催時は 100 名未満だったのが、2022 年度は 1370 名、2023 年度は 1492 名であった。Web 開催に変更してもっとも参加人数が伸びた研修会である。市民向けの講演会は 2023 年度は 2 回開催され、1 回目が 178 回、2 回目が 149 回といずれも 100 名を超える市民の方に視聴いただいた。今後も研修セミナーや一般向けの講演会は、Web 開催の形態で、教育・啓発活動を行っていく予定である。

3. 新潟大学および地域の基幹病院との診療連携

2015 年 10 月から新潟大学脳神経外科との診療連携がはじまり、高磁場 MRI (3 テスラ、あるいは研究用の 7 テスラ)、FDG-PET 検査を大学に依頼して、てんかん外科の術前評価を行っている。特に 3 テスラ MRI と FDG-PET は焦点てんかんにおいての有用なモダリティで、近年検査を依頼する件数が増加している。さらには脳研究所統合機能センターの 7 テスラ MRI を用いたてんかんの画像研究にも取り組んでいる。

新潟県の他の地域との連携に関しては、県北部の県立新発田病院、中越地区の長岡赤十字病院、魚沼基幹病院、上越地区の県立中央病院などを地域の基幹病院として、今後さらなるてんかん診療連携の強化をはかる予定である。

4. 今後の課題と改善点

2023 年度の新規患者数は回復傾向だったが、まだ COVID-19 のパンデミック以前のレベルまでは回復していない。2024 年に手術支援ロボットが導入されたことによって、より多くの薬剤抵抗性てんかん患者がてんかん外科の恩恵を受けられるように、一般市民へのてんかん診療の啓発活動を継続することが重要であると思われる。

*てんかん治療連携協議会委員

新潟県福祉保健部障害福祉課長 島田久幸
 新潟県福祉保健部障害福祉課主任 服部麻耶加
 新潟県精神保健福祉センター所長 阿部俊幸
 新潟大学脳神経外科助教 平石哲也
 日本てんかん協会新潟県支部代表 矢部日出海
 西新潟中央病院副院長 遠山潤
 西新潟中央病院てんかんセンター長 福多真史